

- 1) 評価対象課題
第3期中期運営方針に基づき、令和6年度に実施した、5つの重点目標、17の研究課題を対象とする。
- 2) 評価方法
課題設定、手法の妥当性、達成状況について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員氏名	
北口 紀子	奈良県消費生活相談員連絡会会長
平井 久美	奈良県指導農業士会会長
松山 芳巳	奈良県農業協同組合常務理事
森山 達哉	近畿大学 副学長兼農学部長
乾 新弥	奈良県食農部長

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
新たな奈良県農業の 取組を支える	長距離輸送性を高めるイチゴの品質保持技術の開発	5.0	4.2	3.6	12.8
	・イチゴの長距離輸送時の損傷に関しては、重要な課題である。輸送時の損傷にはさまざまな要因が関与すると想定される。それらを損傷の評価法も含めて科学的に解明を進めていただきたい。また、包装資材や包装方法の改善なども検討が必要であると考えられる。さらに、現地での損傷に対する意見や受容性などもおさえておく必要がある。系統の育種に関しては、選抜基準が難しいと感じるので、再現性のよい簡便な評価法の構築がポイントになると思われる。 ・海外の方にイチゴを食べてもらうのは大賛成だが、完全な状態でなくても多少くらい傷があってもいいのではないかと思う。 ・素晴らしい食味の「古都華」をいかに長距離輸送するのかと、「古都華」と同等以上の食味を持ちつつ長距離輸送に耐性のある新品種の開発という二つの課題の取組みは興味深い。これからの良い結果に期待したい。 ・新品種については、これからの時代に向けたネーミングに期待している。				
	一番茶生産に特化した有機栽培体系の確立	5.0	4.0	4.0	13.0
	・海外市場、特にEU諸国からは有機栽培茶葉が求められている。また海外における日本茶の人気の高まっている背景からも、本課題は重要な取り組みと言える。一番茶生産に特化した有機栽培の方向性が明らかになった点は評価できる。 ・日本茶ブームで京都でもお茶目当ての海外の方を多く見かける。有機栽培による安全なお茶の確立に期待する。 ・海外での抹茶ブームやインバウンドによる訪日客の旺盛な日本茶需要により、茶の輸出額が増加している。残留農薬基準も厳しく、有機栽培体系の確立は重要な課題であり、特に有機てん茶栽培は興味深い。大和茶（てん茶）ブランドの定着に向けて、新品種の検討も含めて期待している。 ・日本の抹茶は、かなりの人気のようだ。農業者は減っているが、魅力のあるお茶を作り続けてほしい。				
	枝物の短期育苗技術と品質保持技術の開発	4.8	3.8	4.0	12.6
・中山間部を中心として、枝物の需要が増加しているなか、本課題は重要である。短期育苗や増殖法、品質保持技術など多くの課題があり、また対象となる品種も多いので、系統立てて研究を進めて頂きたい。耕作放棄地などへの栽培適性の調査なども今後必要と思われる。 ・アセビやスモークツリーなどの枝物が海外で人気なことを初めて知った。縁起が良いと考えられていること、玄関先で飾られていることなど、海外の人たちの生活を彩っていることは嬉しいと思う。 ・花木業界は零細経営や高齢化が課題であるため、枝物の短期育苗技術と品質保持技術の開発は業界の存続には必要な課題設定であると考えられる。奈良県内各地で耕作放棄地が深刻な問題になっており、耕作放棄地削減対策に有効活用できるのであれば、それぞれの地域に枝物育苗技術の普及を図っていただきたい。					

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
「奈良の食」の魅力を活かす	奈良県オリジナル酒米新品種の栽培技術の確立	4.6	4.4	4.0	13.0
	<ul style="list-style-type: none"> これまでの取り組みが着実に進み、品種登録や大規模現地適応性試験にまで進展したことは大いに評価できる。栽培特性の調査のみならず、実際の醸造酒のブランド化や広報なども重要であり、実際に4月にお披露目会が行われることは喜ばしいことである。農家だけでなく、農協や醸造元、販売店、外食業などが力を合わせて普及やブランド力アップに関わっていかれることを期待する。 日本酒発祥の地と言われながら酒米を作っていなかったことを知った。今回の「奈々露」は楽しみにしている。 ようやく酒米「奈々露」が発表・お披露目を迎えるところまで来たことは、これまで関わってこられた皆様の努力が報われると大変嬉しく思う。これからは、安定生産に向けた課題に向き合いながら、奈良県産酒米＝「奈々露」が定着されるようブランド力を高めていただきたい。また、主食用米の新品種開発も期待する。 				
	県産小麦の生産量増加に向けた栽培管理技術の確立	4.4	4.0	3.8	12.2
	<ul style="list-style-type: none"> 県産小麦の「はるみずき」の生産量増加は、要望も多い重要な課題である。奈良県産の小麦を用いたパンの製造希望は今後も増加すると予想される。栽培管理技術として、平地と高地で異なるマニュアル作りを行うのも検討してほしい。また、栽培方法と製パン特性や官能評価などの関連性も検討できれば有意義であると思う。 地産地消が実現できると嬉しいと思う。特に、学校給食で使われると教育（食育）にもなり、子どもたちも生きた勉強ができると思った。 食料自給率を上げるためにも国内産小麦の生産量を上げることが必要である。その中で、県産小麦の生産量増加に向けた課題設定は評価できる。課題は多いが、小麦生産者の確保や栽培技術の向上に向けた取り組みに期待している。 				
	ヤマトトウキにおける抽苔抑制技術の開発	4.2	3.8	3.4	11.4
<ul style="list-style-type: none"> これまでの取り組みが着実に進んでいるように思われる。抽苔しにくい系統の育種から現地試作、現地での有効性の検証へと、栽培現場での実証へとシフトしていく必要性を感じた。 「ヤマトトウキ」という言葉を初めて耳にした。漢方薬として歴史も古い薬草とのこと。抽苔しにくい系統が育成され、人々の健康につながればと思う。 抽苔しにくい系統の育成や抽苔抑制技術は、ヤマトトウキだけでなく様々な農作物に応用できる。ヤマトトウキの商品価値を上げるためにもこの課題は必要であると評価できる。 					
ヨモギ栽培技術の開発	4.8	4.0	4.0	12.8	
<ul style="list-style-type: none"> 宇陀や東吉野などの中山間地において、ヨモギの安定栽培技術の要望は高い。これらの地域での新しい特産品として成長させるためには安定した栽培技術の確立が必須である。本研究では種々の工夫を組み合わせ、効率的で省力的な栽培技術の開発が達成されつつあり、達成度合いは評価できる。将来的には、ヨモギの収量だけでなく、品質評価や品質の良さのアピールなど、利用や加工などに向けた高付加価値化の検討も必要かもしれない。 ヨモギは身近な食品として生活の中に存在している。デトックス効果として食べている人もいるとのこと、海外の人からも注目される日がくるかもしれない。 国内産のヨモギの需要が高く、ヨモギ栽培技術の開発は興味深い課題である。まだまだ生産農家が少なく収益も見込めるので、早期に結果を出し、普及に結びつけていただきたい。 雑草との戦いになりそうだが、耕作放棄地などの利用によって特産品になることを期待する。 					
吉野葛の科学的評価と栽培技術の確立	4.6	4.0	4.0	12.6	
<ul style="list-style-type: none"> 吉野葛は県内のブランド産品であるので、その安定栽培は重要な課題である。塊根の形成が特に重要になると思われるが、それは現時点では未達成であるので、今後の取り組みで達成できるかどうか、効果的な対策を検討していただきたい。 県内業者に体験に行ったことがあり、危機的状況であることはそのときに聞いた。県を代表する食材でもあり、栽培体系が確立されることを期待する。 吉野本葛の原料である天然ものの葛根は資源枯渇の危機にある。吉野本葛を守るために葛根を栽培する技術の確立は喫緊の課題である。早期の技術確立を期待する。 葛栽培は難しいと聞いているが、漢方、食生活には大事。これからだと思うので、頑張ってもらいたい。 					

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
新技術に取り組む特定農業振興ゾーンを支援する	大和高原地域の有機農業を支援するための技術開発と品目の選定	5.0	3.8	4.0	12.8
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該地区は、無農薬栽培で有名になっているので、そのサポートと進展は重要な課題である。さまざまな工夫や技術を駆使して一定の成果は得られていると思われる。新規に有機栽培可能な露地品目についても、試験レベルでは対応可能という結果が得られており、評価できる。規模拡大時でのあらたな課題の発生などに今後対応が必要であろう。 ・主婦目線でいえば、オーガニックや有機野菜は気になるキーワードだと思う。有機農業を目指す農家も今後増えてくるのが考えられ、支援のための技術開発はとても必要だと思う。 ・有機栽培農業が注目を集める中、まずは大和高原地域で有機栽培農業を定着させていきたい。様々な農産物栽培技術を確認させ、その技術を他地域でも展開できることを期待する。 				
	温暖化に対抗する施設野菜の生産安定	4.6	4.0	3.8	12.4
	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化や大雨など、極端な気候変動に対応する施設野菜の生産方法の確立は重要事項であるが、他府県でも汎用的に検討されている事項と、奈良県独自の課題や適正化などをうまくミックスさせて研究を進める必要がある。ナスに関しては、そもそものような要因でつやなし果が生じるのか、科学的視点での検討も望まれる。 ・最近の温暖化には市場も多く影響を受けている。困っている農家も多くいると考える。安定供給に向けた取り組みは近い将来、他の野菜も必要になると思う。 ・地球温暖化により影響を受ける施設野菜の生産安定を課題としている点は興味深い。作物によって技術も異なるので、これからの研究成果に期待している。 				
	イチゴを中心とした需要動向の調査と生産コスト低減の検討	4.8	3.2	3.6	11.6
	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴは新規就農者も多く、人気の品目であるため、その生産コスト低減や適正な価格設定などは重要な案件である。一般消費者だけでなく、外食業者や加工業者などへのヒアリングも望まれる。 ・テレビなどでもイチゴの新規就農者の特集を見る。本当に良いものなら高価格でも買う消費者も一定数いると思うが、広く多くの人が口にすることができるのが望ましい。しかし、農家の手間暇を考えれば価格は高くなるのかもしれない。あとは市場が決めるのかもしれない。 ・「古都華」の価格受容性調査で得られた調査結果は興味深い。生産者設定価格と消費者理想価格との価格差を認識して適正価格で販売できるよう、引き続き調査・提案いただきたい。 				
ナスうどんこ病に対する有効薬剤の探索と防除の省力化	4.6	4.0	4.0	12.6	
<ul style="list-style-type: none"> ・ナスうどんこ病菌は植物体上でしか培養できない菌なので、解析が困難。県内の菌種の同定に成功した点は評価できる。薬剤選抜や防除法試験のための接種条件の検討を行っているが、さらなるスピードアップも期待したい。 ・薬剤の開発はメーカーがするものだと思っていたが、メーカーもお金になることしか開発しないのだと改めて思い知った。誰かがやらなければいけないことに取り組んでいることに頭が下がった。 ・ナスの病害の中で発生率の高いうどんこ病をいかに対策するかというのは、ナス生産者にとって重要課題である。効果の高い薬剤の開発と省力化ができれば画期的であるので、是非とも課題達成いただきたい。 ・菌の進化との競争だが、期待している。 					
野菜類のアザミウマ類等に対する農薬代替技術の開発	5.0	4.0	4.0	13.0	
<ul style="list-style-type: none"> ・天敵製剤や物理的防除法などの農薬を使用しない防除法の確立は重要な課題である。効果的な方法を見いだしつつ有り、評価できる。これらの効果が安定的に維持できるかどうか、再現性の検討も今後必要と思う。 ・「天敵」という代替技術により、多くの農家が救われることを願う。 ・アザミウマ類の害虫に対し農薬に代わる対処技術として、天敵製剤の利用を研究開発されている。様々な害虫に対し、より有効な代替技術の開発を期待する。 					

重点目標	研究課題	評価区分			合計
		課題設定 平均	手法の妥当性 平均	達成状況 平均	
評価委員の意見					
大規模産地の継続的な発展を支える	新たなカキ品種の育成	5.0	4.2	4.0	13.2
	<p>・カキはイチゴとともに重要な県産農作物であるので、非常に重要な課題である。これまでの取り組みが実を結び、有望系統が得られ、出願のために必要な特性評価を進めている。順調に進み、令和8年度に品種登録出願できれば素晴らしい。現場ニーズのある甘柿の育成も期待したい。</p> <p>・カキは奈良を代表するものだと思う。健康にも良く、食べ方にもバリエーションがあり、その時々で楽しむことができる。有望系統に名前がついて市場をにぎやかにする日を楽しみにしている。</p> <p>・今回の新たなカキ品種（渋柿）は大玉であり糖度も高いとのことなので大変期待している。研究中であると思うが、今後は甘柿の開発にも尽力いただきたい。</p> <p>・奈良県の大きな産物だと思う。技術者、研究員が不足していないだろうか。奈良県からの新品種期待している。</p>				
大規模産地の継続的な発展を支える	キク白さび病の感染環を断ち切る技術体系の確立	5.0	4.0	3.6	12.6
	<p>・小ギクなどのキクは本県の重要な栽培品種であり、その収益性の低下をもたらすキク白さび病の防除は重要な課題である。UV-Bの利用などの新しい技術の確立が望まれる。抵抗性系統の育成も重要な課題である。</p> <p>・平群に行くと小ギク農家を多く見かける。年間作っているのは目にしてきたが、白さび病にも気を使っていたことは知らなかった。UV-Bランプの利用などが良い結果につながることを期待する。</p> <p>・キク白さび病の感染の連鎖を断ち切るには、幅広い対策が必要である。農薬に依存しすぎると、薬剤抵抗性のある白さび病も発生する懸念もある。課題設定にある穂や苗の高温処理やUV-Bランプ、抵抗性のある系統の育成などは対策として非常に興味深い。引き続きの研究を期待している。</p>				
将来の環境変化に対応する	温暖化に適応した果樹新規品目の栽培適性調査	4.6	3.8	3.2	11.6
	<p>・温暖化に適応した新規果樹の栽培適性試験を行う課題であり、意義が認められる。今回は、アボカドにフォーカスして一定の成果が出ている。今後も収益性の高い新たな品目の探索も期待したい。</p> <p>・温暖化を逆に利用する手があったのかと気づかされた。アボカドは最近スーパーでもよく目にする。国産、特に奈良産ができれば、料理の可能性が広がり、食卓も一品増えそう。</p> <p>・ハウス柿栽培環境下での果樹新規品目の栽培適性の調査はとても興味深い。環境に適応できる果樹は限定されるとのことだが、市場での需要や収益性、栽培し易さも考慮して様々な実証実験を繰り返しながら進めていただきたい。</p>				
将来の環境変化に対応する	食品残渣等の未利用資源の特性把握	4.4	3.8	2.8	11.0
	<p>・食品残渣の有効利用はSDG sの観点からも重要な課題である。県内で発生し、農業資源として有効に使用可能な残渣資源の状況調査は必要である。小麦フスマなども候補になるのではないだろうか？進捗に関しては、現時点での未達項目がいくつかあり、さらなるスピードアップも期待したい。なお、未利用資源に関しては運搬経費や前処理費用などの問題もあり、経済的な観点からもその実現可能性を評価すべきと感じた。</p> <p>・未利用資源の活用は大賛成。これからも未永い可能性を探り、持続可能な農業、社会の実現をすべての人たちの課題として取り組むべきだと思う。</p> <p>・食品残渣等未利用資源問題はSDG sを実行していく上で重要な課題である。未利用資源25品目から5品目を選抜して分析調査を行っていただいているが、さらに広げて調査いただきたい。</p>				